

平成29年度亀岡市地方創生推進会議 事業一覧

No.	交付金	計画名
1	地方創生加速化交付金	保津川の魅力を定着化し地域資源に活用するまち興し
2	地方創生加速化交付金 地方創生推進交付金	森のステーション・匠ビレッジ事業 森のステーションかめおか
3	地方創生加速化交付金	「森の京都」DMO地域活性化推進事業
4	地方創生加速化交付金	京都丹波移住定住プロジェクト
5	地方創生推進交付金	(府広域)今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業
6	地方創生推進交付金	「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクト

事業の名称 (活用した交付金)	保津川の魅力を定着化し地域資源に活用するまち興し (地方創生加速化交付金)	事業期間	平成28年度	事業費(補助率)	19,697,449円(10/10補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	環境市民部環境政策課、土木建築部桂川・道路整備課、教育部社会教育課、文化資料館						
事業概要	天然記念物アユモドキに代表される貴重な生き物の魅力を活用した事業を展開するため、川ごみ学習や保津川の歴史講座などで保津川の魅力を発信するとともに、景観整備や自然環境を活かした共生ゾーンを検討するなかで、まち興しを行う。						
取組内容	保津川の魅力を発信する取組として、保津川の自然景観を体感しながら環境保全の重要性を感じられる事業を展開することで自然環境・景観の保全に対する意識の向上を図り、川に視点を置いた暮らしの象徴として筏の復活とアユモドキの保護啓発活動を実施した。また、川と人との関わりや物流、川の生業の歴史についてなど保津川の文化遺産としての魅力に迫る全2回の「保津川歴史講座」を開催し、歴史講座への参加が少なかった若年層を対象として保津川の魅力について解説したパンフレットを作成した。 保津川の魅力を定着化する取組として、「京都・亀岡保津川公園」内において、アユモドキをはじめとする希少な生物が生息できる共生ゾーンの整備に向けたアユモドキ生息環境再生整備実験を行うとともに、亀岡市都市計画公園「京都・亀岡保津川公園」共生ゾーン基本構想の検討を実施した。また、景観整備のため堤防等の除草業務や広場の植栽剪定業務を行った。						
取組の成果	保津川の魅力を発信する取組について、各種イベント、講座の参加者数は目標を上回り、市外からも多くの参加をいただいた。2回の歴史講座では第1回で保津川と近世の人々との関わりや、保津川の古写真を利用したトークを行い、第2回では川の生業が観光資源として今も継続している長良川・天竜川・保津川について、各県の担当者や船下りの事業者を招いて比較等を行った。こうした取り組みを通じて、保津川の価値を見直し理解を深める機会を提供できた。また、保津川の川べりでいかだの試し乗りを実施したり、国際森林シンポジウム(森の京都)展示会場で筏関連資料の展示を行うことで保津川を軸とした筏文化復活への取り組みを広く知ってもらう機会となった。 保津川の魅力を定着化する取組としてはアユモドキ生息環境再生整備実験の結果、都市計画公園の一部に共生ゾーンを設ける構想につながった。また、除草や植栽剪定により景観維持を行い保津川の魅力が高まった。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値	実績値(H29.3)	達成/不達成	KPIの達成度に基づく評価(A~C)	事業の今後について
	KPI①	各種イベント、講座	1,100人	1,702人	達成	【B: 地方創生に効果があった。】 企業のCSR活動社数や転入者数は目標に達しなかったが、各種イベント参加者や観光入込客数の増加がみられ、一定の効果があった。	【事業を継続】 新たな地域資源である「京都・亀岡保津川公園」等と現存する保津川下りをはじめとした地域資源を、保津川の魅力を定着し地域資源に活用するまち興し事業と結び付け、今後もまち興しを推進していく。
	KPI②	保津川での企業のCSR活動社数	3社	2社	不達成		
	KPI③	市外からの転入者(年間)	2,660人	2,450人	不達成		
	KPI④	観光入込客数	2,430,000人	2,799,860人	達成		
亀岡市地方創生推進会議 評価・意見	【地方創生に効果があった。】 事業を通して市民が地域に魅力を感じることで、人口を減らさないことにつながる。今後も継続して事業を行っていくことが重要である。						

事業の取組に関する写真等



こども川ごみ調査隊



保津川歴史講座



いかだ流し(組み立て作業)

事業の成果に関する写真等



アユモドキ生息環境再生整備実験地



保津川の日



いかだ流し(いかだ試し乗り)

平成29年度 亀岡市地方創生推進会議 事業評価シート

事業No.2

<p>事業の名称 (活用した交付金)</p>	<p>森のステーション・匠ビレッジ事業 (地方創生加速化交付金) 森のステーションかめおか (地方創生推進交付金)</p>	<p>事業期間</p>	<p>平成28年度 (加速化) 平成28～30年度 (推進)</p>	<p>事業費(補助率)</p>	<p>(加速化)25,000,000円(10/10補助) (推進)10,000,000円(1/2補助)</p>	
<p>実施計画の作成主体 (広域連携対象)</p>	<p>亀岡市</p>					
<p>事業担当課</p>	<p>(加速化)産業観光部観光戦略課 (推進)産業観光部ものづくり産業課、観光戦略課</p>					
<p>事業概要</p>	<p>地域資源(チョロギ、天然砥石等)を有効活用し、既存の亀岡交流会館に「匠ビレッジ」を設置し、仕事の体験できる場を整備するとともに、地域特産活用型ビジネスの事業展開を行い、交流人口の増加、雇用の拡大、担い手等の確保、雇用促進、移住定住へ繋げる。「森の京都」としての取組の効果をより一層高めるため、市街地周辺地域のそれぞれ特徴を有する神前地区[匠ビレッジ、チョロギ村]、西別院町[ドリムトン村(英国村)]、川東地区[レンタサイクル事業等]の3地域を「森のステーション」として位置付け、「森の京都」の新たな入り口としての機能を持たせ、市街地及び隣接する京阪神から来訪者を呼び込み、亀岡市全体に人の流れを創出し、滞在型の事業を展開することで、亀岡市の付加価値を向上させ、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げることを目的とする。</p>					
<p>取組内容</p>	<p>「森の京都」としての取組の効果をより一層高めるため、国道9号をはじめ、それに接続する幹線道路周辺地域を「森」をテーマに地域資源を活用した観光誘客を図る「森のステーション」として位置づけ、隣接する京阪神から来訪者を呼び込み、亀岡市全体における人の流れを創出し、滞在型の事業を展開することで、亀岡市のブランド力を高め、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げることを目的に「森のステーション基本計画」を策定した。 亀岡の地域資源のひとつである天然砥石に着目し、既存施設である亀岡市交流会館を、亀岡産の天然砥石をはじめ日本各地や世界の砥石を展示するとともにインストラクターが研ぎ方を教える「研ぎ体験コーナー」も常設するなど研ぎの体験ができる展示体験型の施設として整備した。すばらしい技でモノを作り上げる職人の仕事を支え続けてきた「天然砥石」。この上質で多彩な砥石が採れるここ亀岡を「天然砥石の聖地」として広く発信するとともに、本地域で創作活動をされている工芸をはじめとする「匠の技」の展示販売コーナーも兼ね備えた亀岡市の新たな観光の拠点として「森のステーションかめおか」匠ビレッジをスタートさせた。 また、地域特産活用型ビジネスモデルとして、認知症予防に効果があるとされている「チョロギ」をはじめ金時生姜などの販売ブースの設置をし、新たな雇用を促進し、移住定住につなげるために、今後整備予定の薬草原や薬膳レストランなどの整備検討をおこなった。</p>					
<p>取組の成果</p>	<p>「森の京都」というキャッチフレーズのもと、「森」をテーマとした戦略的な交流拠点づくり、地域資源を活用する拠点づくりをめざすための端を開く事業展開ができ、匠ビレッジのプレオープン時には、目標を上回る来場者でにぎわった。 匠ビレッジにおいては天然砥石の歴史や地質についての展示解説の他に、新規就業者として2名の職人を雇用し、天然砥石を使用したの包丁等の研ぎ体験の指導をおこなうことで、亀岡の砥石文化を広く発信し、職人の技術を体験できる魅力ある施設として整備した。 平成29年度に整備する薬草原については計画図の作成及び獣害柵を整備し、匠ビレッジの展示については平成29年度のリニューアルオープンに向けて天然砥石の採掘現場を再現したオブジェの制作をはじめ、刀剣用、料理人の包丁用、大工職人の鑿(のみ)や鉋(かんな)などの用途に合わせた天然砥石とその道具をブースを設ける使用道具の展示や体験学習の普及活動の充実に努めた。</p>					
<p>重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価</p>	<p>内容</p>	<p>指標値</p>	<p>実績値(H29.3)</p>	<p>達成/不達成</p>	<p>KPIの達成度に基づく評価(A~C)</p>	<p>事業の今後について</p>
	<p>KPI① 観光入込者数</p>	<p>2,435,000人</p>	<p>2,799,860人</p>	<p>達成</p>	<p>【A:地方創生に非常に効果があった。】 森のステーション全体として目標以上の来客があり、3大観光に次ぐ新たな観光拠点となる地域資源を活かした魅力ある施設の整備として十分な効果があった。</p>	<p>【事業を継続】 平成29年度以降は施設整備も一定完了するため、認知度を高める取り組みとして、体験メニューの充実を図るなど普及活動事業に力を入れ、継続的に市内外からの誘客を図り、交流人口の増加、地域の雇用促進、移住定住促進を図る事業を継続して実施する</p>
	<p>KPI② 観光消費額</p>	<p>64.58億円</p>	<p>74.20億円</p>	<p>達成</p>		
	<p>KPI③ 匠ビレッジ新規就業者数</p>	<p>2人増</p>	<p>2人増</p>	<p>達成</p>		
	<p>KPI④ 匠ビレッジ・展示ブース入場者</p>	<p>1,000人</p>	<p>2,844人</p>	<p>達成</p>		
	<p>KPI⑤ 森のステーションかめおか入場者数</p>	<p>120,000人</p>	<p>125,619人</p>	<p>達成</p>		
	<p>KPI⑥ 匠ビレッジかめおか職人の技展開催事業による職人サポート数</p>	<p>2人</p>	<p>2人</p>	<p>達成</p>		
<p>亀岡市地方創生推進会議 評価・意見</p>	<p>【地方創生に効果があった。】 KPIの達成度も良好で、今後の発展が期待できる。 アウトドア体験等を取り入れたり、そこでしか買えない商品などがあると良い。</p>					

事業の取組に関する写真等



匠ビレッジ
プレオープン セレモニー 10月22日



匠ビレッジ
オープニングイベント 10月23日



匠ビレッジ 展示



匠体験等事業 かんなうす削りの体験



チョコログ活動支援事業



地元の砥石の他、全国・世界の砥石を展示

事業の成果に関する写真等



薬草原整備事業 計画図作成



薬草原 獣害柵設置



案内看板の設置

事業の名称 (活用した交付金)	「森の京都」DMO地域活性化推進事業 (地方創生加速化交付金)	事業期間	平成28年度	事業費(補助率)	10,000,000円(10/10補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	京都府 (福知山市、綾部市、亀岡市、南丹市、京丹波町)						
事業担当課	企画管理部企画調整課、産業観光部観光戦略課						
事業概要	「林業の振興」「自然環境の保全」「森の文化の魅力発信」などの取組を強化するとともに、森の京都の魅力为全国に発信する「森の京都博」を開催し、交流人口の拡大及び定住促進の取組の強化を図った。また、「森の京都DMO」を設立し、総合的かつ計画的に観光地域づくりを推進する。						
取組内容	森の京都地域(福知山市、綾部市、亀岡市、南丹市、京丹波町)の観光関連団体や行政などが連携、ネットワークの強化を図り、地域の総合プロデューサーとして地域の魅力を引き出し、地域力を高める組織「一般社団法人森の京都地域振興社(通称:森の京都DMO)」を設立し、観光地域づくりの推進による交流人口の拡大、地域全体の振興を図った。 また、平成28年度は「森の京都」のターゲットイヤーとして、通年事業として「森の京都博」が開催された。亀岡市においては「森の京都博」メインイベントの一つとして、従来とは違う視点から「森の京都」への興味・関心を掘り起こし、「森の京都」エリアに対する新たな関心層を作り出すことを目的に、女性向けファッション誌である「mer」とタイアップし、平成28年5月28日(土)に、「森の京都博×mer☆ガールズFes」が開催された他、本市における「森の京都」重点エリアである千歳町自治会において、地域資源である「丹波七福神」を活用した地域振興、交流人口の拡大を目的に、「千歳はでっかい宝船～丹波七福神フェスティバル～」が実施されるにあたり、「森の京都」事業補助金を交付し、事業推進の補助を行った。						
取組の成果	地域の多様な事業者が参画して(一社)森の京都地域振興社が設立されたこと等により、各地域の取り組みを横断的に調整しながら、地域資源のブラッシュアップ、どこにでもあるようでどこにもない地域の魅力の発信、知名度の向上等を図り、地域全体で観光誘客等を推進する基礎が構築された。 また、1年間を通して、「森の京都博」を開催した結果、例年よりも多くの方々に森の京都エリアに来訪いただき、交流人口の拡大につながった。「千歳はでっかい宝船～丹波七福神フェスティバル～」については、当日は、雨天であったものの、町内外から多数の参加者が来訪され、千歳町の有する歴史・自然・農産物等の魅力発信につながった。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値	実績値(H29.3)	達成/不達成	KPIの達成度に基づく評価(A~C)	事業の今後について
	KPI①	ツアー参加者数年間合計(千歳町七福神ウォーク)	100人	140人	達成	【A:地方創生に非常に効果があった。】 各種イベントの開催により交流人口の拡大に効果があり、森の京都エリアの魅力発信ができたため十分な効果があった。	
	KPI②	観光入込客数	2,480,000人	2,799,860人	達成		
	KPI③						
	KPI④						
亀岡市地方創生推進会議 評価・意見	【地方創生に効果があった。】 外国人観光客の取り込みを考えると、交通アクセスが今後重要になってくる。観光客を増やすため、信用金庫等の年金受取者向け旅行を企画してはどうか。						

事業の取組に関する写真等



「森の京都博×mer☆ガールズFes」ファッションショー



丹波七福神フェスティバル メイン会場

事業の成果に関する写真等



森の京都DMO 設立総会



森の京都DMO 事務所

事業の名称 (活用した交付金)	京都丹波移住定住プロジェクト (地方創生加速化交付金)	事業期間	平成28年度	事業費(補助率)	3,000,000円(10/10補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	南丹市 (亀岡市、京丹波町)						
事業担当課	産業観光部ものづくり産業課						
事業概要	京都丹波の2市1町(南丹市、京丹波町、亀岡市)が連携して、特に各地域の事業所と若者の就職のマッチングを行うとともに、移住促進のパンフレットを作成する。						
取組内容	京都丹波の2市1町において「京都丹波就職支援協議会」を立ち上げ、同協議会において以下の事業を実施した。 ①採用力向上セミナーの実施(11/29ガレリアにて実施。19事業所参加) ②ワークショップ等のイベント開催(2/7大阪市内、2/13京都市内にて開催。計13事業所参加、延べ参加者数56名) ③合同企業説明会の実施(1/24ガレリア、1/26南丹市国際交流会館にて実施。計51事業所参加、延べ参加者数42名) ④企業面接イベントの実施(2/13京都市内にて実施。計7事業所参加、延べ参加者数41名) ⑤企業見学ツアーの実施(3/14実施(南丹市・京丹波町)18名参加。3/16実施(亀岡市)15名参加。) ⑥移住促進及び就職マッチングを目的としたPR冊子「京都丹波Walker」を作成						
取組の成果	ワークショップ等のイベント開催や移住促進及び就職マッチングを目的とした「京都丹波Walker」の作成により、京都丹波地域以外の多くの方々に対して、当該地域の企業の魅力や地域の特色を広く周知することが出来た。また、合同企業説明会や企業見学ツアーの実施により、亀岡市内に所在する中小企業の魅力を直に触れることができ、結果、4件の問い合わせが見られ、内、2件の正社員採用に繋がる等の成果が見られた。なお、「京都丹波就職支援協議会」に大学生の参画を目標としていたが、亀岡市及び京丹波町において参画はなかったものの、南丹市において1名の大学生の参画があり、当該事業を実施する上で、当該年齢層の意見を踏まえた上での事業実施に一定の成果が見られた。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容	指標値	実績値(H29.3)	達成/不達成	KPIの達成度に基づく評価(A~C)	事業の今後について 【事業を継続】 今後も南丹振興局(就労支援Aチーム)及び2市1町とも連携を図りながら、合同企業説明会等の実施を予定している。	
	KPI①	大学生参画者数	2人	0人	不達成		【B:地方創生に効果があった。】 大学生の参画は亀岡市ではなかったが、就職マッチングへの相談者数は目標以上で、正社員採用の成果もあり、一定の効果があった。
	KPI②	就職マッチング相談者数	50人	57人	達成		
	KPI③	パンフレット作成数	4,000部	4,000部	達成		
KPI④							
亀岡市地方創生推進会議 評価・意見	【地方創生に効果があった。】 人口の維持には雇用が不可欠である。 商工業者では、人手不足や従業員が定着しないなどの悩みがある。 事業主と学生のマッチングが多くできることを期待する。						

事業の取組に関する写真等



採用力向上セミナー



ワークショップ(みやこめっせ)



ワークショップ(梅田スカイビル)

事業の成果に関する写真等



合同企業説明会(ガレリア)



企業見学ツアー(亀岡市内)



PR冊子「京都丹波Walker」

平成29年度 亀岡市地方創生推進会議 事業評価シート

事業No.5

事業の名称 (活用した交付金)	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業 (地方創生推進交付金)	事業期間	平成28～32年度	事業費(補助率)	63,189,926円(1/2補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	京都府 (京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、八幡市、長岡京市、木津川市、井手町、宇治田原町、京丹波町、南丹市、綾部市、精華町)						
事業担当課	生涯学習部スポーツ推進課、産業観光部ものづくり産業課、観光戦略課、農林振興課、文化資料館						
事業概要	ワールドベストシティランキングで2年連続1位に輝いた京都市に訪れる国内外の観光客を、京都府全域への周遊へつなげていくため、国際観光都市「京都市」、北部の「海」、中部の「森」、南部の「お茶」という地域ブランドの下にそれぞれDMOを設立し、圏域内の観光・交流・集客等に関する事業を一元的・総合的に実施できる体制整備を進めるとともに、各DMO間の周遊性の向上による観光滞在時間の長期化と観光消費額の増加を図り、観光産業が地域経済を循環させる社会の実現を目指す。						
取組内容	亀岡市の観光の魅力を高めるため、「観光プロモーション・基盤整備事業」、「食農・観光等連携事業」、「にぎわい誘客事業」について実施した。 「観光プロモーション・基盤整備事業」としては観光案内機能の強化としてJR亀岡駅観光案内所及びトロッコ亀岡駅観光案内所における英語観光案内対応事業やトロッコ嵯峨駅における臨時観光案内所設置事業、築約100年の町家を活用した城下町観光案内所事業を行った他、本市の魅力を発信するため本市ゆかりの「明智光秀」大河ドラマ誘致活動事業、ロケ支援・誘致プロモーション事業、本市観光マスコットキャラクターを活用した観光キャンペーンを行った。 「食農・観光等連携事業」としては亀岡の「食」と「農」について広く周知し、また地産地消が促進できるよう「アグリフェスタ2016」や「農業塾」、「料理塾」を開催した。また、安全・安心な農産物を消費者に提供できるよう、農薬や化学肥料の低減による環境に配慮した農業への支援として、亀岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、農業の根幹となる土づくりを通じて集落営農活動を促進すると共に、安全安心な農産物の生産振興により亀岡野菜ブランドの確立と販売力の拡大に努めた。販売に関しては、市内直売所に対し体制強化のための助成を行った。 「にぎわい誘客事業」としては、観光入込客数を伸ばすため、明智光秀ゆかりの城下町を散策しながら協賛店でお得に食事、土産等を購入できる「宝さがしゲーム」の実施、「亀岡祭」山鉦行事に合わせて城下町にあんどんを灯し街角ギャラリー等のにぎわい創出事業を実施した。また、京都亀岡ハーフマラソンや商店街の「京都サンガ2017シーズン亀岡市壮行会」や「第10回亀岡山城下ひなまつり事業」への補助を行った他、文化資料館において第60回企画展「季節の楽しみ～行事食と暮らしの道具～」、第32回特別展「山とともにくらす～森・川・いかだ～」を開催し、亀岡のにぎわい創出、魅力発信につとめた。 また、その他の事業としてJR4駅に隣接する駐輪場を活用したレンタサイクル事業を実施し、点在する観光資源のネットワーク化を図った。						
取組の成果	「観光プロモーション・基盤整備事業」については臨時観光案内所を含め観光案内所には英語のできるスタッフを常駐させ、霧の風景や京野菜、天然砥石等ここにしかない観光資源のPR、また、世界的観光都市である京都市からJR快速でわずか20分の地の利を活かし、一足伸ばしの観光地として「体験観光」のプロモーション等を実施し、外国人を含めた観光入込客、外国人宿泊者数、及び観光消費額の増加につなげた。 「食農・観光等連携事業」については、「アグリフェスタ2016」で約5,000人の方に安全安心な亀岡産農畜産物や加工品、農業体験を楽しんでいただき、「食」と「農」の理解促進、また「地産地消」の意識づけについて、一定の成果があったものと考えている。また、安全・安心な農産物を提供するため、亀岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、集落営農活動を推進する農家に対し、助成を行った。環境にやさしい循環型農業への取り組みに貢献した。 「にぎわい誘客事業」については関連団体等と協働で本市の歴史・文化に触れる取り組み、地域の特産品等をPRする取り組みを実施したり、観光地やハイキングコース等の整備を実施することでにぎわいを創出し、外国人観光客を含めた観光入込客及び観光消費額の増を図った。 また、レンタサイクル事業によって点在する観光資源や交通拠点を結び、滞在時間の延長、観光消費額の増加につなげた。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値	実績値(H29.3)	達成／不達成	KPIの達成度に基づく評価(A～C)	事業の今後について
	KPI①	観光消費額(京都府)	8910.4億円	1兆1446.7億円	達成	【A: 地方創生に非常に効果があった。】 京都府内全域の目標値を十分達成し、広域連携による観光推進事業として十分な成果があった。	【事業を継続】 当事業は広域連携による5か年の計画であり、観光誘客及び観光消費額増の効果があるため、今後も継続して実施する。
	KPI②	観光入込客数(京都府)	8499.2万人	8741.1万人	達成		
	KPI③	外国人宿泊者数(京都府)	209.8万人	325.6万人	達成		
	KPI④	/	/	/	/		
亀岡市地方創生推進会議 評価・意見	【地方創生に効果があった。】 観光案内所に英語対応できる職員がいることは、観光客に好評である。 レンタサイクルは、道中のロケーションを見てもらえる意味でも効果がある。 スマートフォンのアプリなど、ITの活用で人件費を削減してはどうか。						

事業の取組に関する写真等



京都サンガ応援商店街づくり支援事業



文化資料館第60回企画展



文化資料館第32回特別展

事業の成果に関する写真等



アグリフェスタ2016



観光プロモーション・基盤整備事業
(トロッコ嵯峨駅に臨時観光案内所
を開設)



レンタサイクル事業
(かめまる観光レンタサイクル事業を実施)

事業の名称 (活用した交付金)	「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクト (地方創生推進交付金)	事業期間	平成28～30年度	事業費(補助率)	4,092,441円(1/2補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	まちづくり推進部都市計画課、都市整備課						
事業概要	亀岡市内に息づく花や緑などの魅力を体感いただくため、市民・民間が主役の緑のまちづくりを進める「ガーデン・ミュージアム」と、豊かな自然環境に恵まれた地域の生物保全や地域資源を活かしたまちづくりを進める「ネイチャー・ミュージアム」の2つを融合させ、亀岡まるごとガーデン・ミュージアム(博物館)として位置付け、亀岡の来訪者へのおもてなしの気持ちを表すとともに、地域活性化、観光振興を図り、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げる。						
取組内容	本プロジェクトの構想を策定するため、保全・再生等を行うべき地域資源の抽出とその特性に関して、都市部について京都学園大学、農村部について京都大学にて調査を実施した。 また、本市が推進する花と緑のまちづくりの一環として、京都縦貫道亀岡ランプにおいて、来訪者を気持ちよく迎え、亀岡の魅力を体感いただくためのウェルカムガーデンを整備するため、計画作成を委託した。						
取組の成果	構想策定に向けて実施した調査内容・調査結果を基に、今年度引き続き具体施策提案を含んだ構想のまとめを行うこととしている。構想の内容に合わせ、具体的な事業実施に繋げることとする。 なお、平成29年3月18日に「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想(都市部編)策定に関する調査研究について開催した景観講演会において、市民等69名が参加し44通のアンケートが提出され、市民の関心を寄せている。今後、市内外に構想の取組みについて広く発信していき、亀岡を訪れたい、亀岡に住みたいという意識の醸成に繋げる。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容	指標値	実績値(H29.3)	達成/不達成	KPIの達成度に基づく評価(A~C)	事業の今後について 【事業を継続】 良好な景観形成、地域活性化、観光振興、環境保全など、多様な効果が見込まれるため、継続して実施する。	
	KPI①	亀岡市の転出入の増減幅縮小(△2,000人から毎年175人縮小)	△1,825人(転出が転入を1,825人超過)	△2,010人(転出が転入を2,010人超過)	不達成		【B: 地方創生に効果があった。】 転出入数にすぐに効果は出していないが、亀岡市を訪れる人を示すにぎわい人口は増加しており、今後の展開に向けて一定の効果はあった。
	KPI②	にぎわい人口を600万人にする。	5,648,000人	5,917,122人	達成		
	KPI③	市民及び来訪者アンケートによる亀岡市での居住意向人数	175人	未実施	不明		
KPI④							
亀岡市地方創生推進会議 評価・意見	【地方創生に効果があった。】 農村部と都市部の違いを考慮して取り組むことは有効である。 整備後の維持管理にもしっかりと取り組んでもらいたい。						

事業の取組に関する写真等



「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクトに関する協定締結及び意見交換会



「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想(都市部編)に係る中間報告



「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想(農村部編)に係る中間報告

事業の成果に関する写真等



「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想に係る中間報告書



「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想(都市部編)に係る景観講演会



ウェルカムガーデン整備設計業務成果品